平成24年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年5月8日

上場会社名　ライオン株式会社　　上場取引所　東
コード番号　4912　URL　http://www.lion.co.jp/
代表者　(役職名) 取締役社長　(氏名) 濱　逸夫
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長　(氏名) 鎌尾　義明　TEL 03-3621-6211

四半期報告書提出予定日　平成24年5月15日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第1四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第1四半期	67,575	2.8	△3,427	―	△3,203	―	△2,323	―
23年12月期第1四半期	65,703	1.2	△487	―	△187	―	△2,725	―

(注)包括利益　24年12月期第1四半期　1,770百万円　(―%)　23年12月期第1四半期　△2,890百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第1四半期	△8.65	―
23年12月期第1四半期	△10.15	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第1四半期	244,188	105,423	41.6
23年12月期	249,272	105,252	40.9

(参考) 自己資本　24年12月期第1四半期　101,684百万円　23年12月期　102,049百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	―	5.00	―	6.00	11.00
24年12月期	―				
24年12月期(予想)		5.00	―	5.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	155,000	2.3	2,500	△24.8	3,000	△25.3	1,500	―	5.59
通期	335,000	2.3	12,000	7.4	13,000	6.7	7,000	71.7	26.07

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 有
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

詳細は、四半期決算短信【添付資料】p.7「(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年12月期1Q	299,115,346 株	23年12月期	299,115,346 株
② 期末自己株式数	24年12月期1Q	30,625,760 株	23年12月期	30,645,932 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年12月期1Q	268,494,021 株	23年12月期1Q	268,472,564 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料で記述している業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、経済情勢、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、上記予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信【添付資料】p.6「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報……2
（１）連結経営成績に関する定性的情報……2
（２）連結財政状態に関する定性的情報……6
（３）連結業績予想に関する定性的情報……6

２．サマリー情報（その他）に関する事項……7
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動……7
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用……7
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示……7

３．四半期連結財務諸表……8
（１）四半期連結貸借対照表……8
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書…… 10
（３）継続企業の前提に関する注記…… 12
（４）セグメント情報等…… 12
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記…… 12
（６）追加情報…… 12

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期（平成24年１月１日～３月31日）のわが国経済は、個人消費や生産活動に持ち直しの動きがみられましたが、原油価格上昇の影響や海外経済の減速による企業収益の減少等もあり、不透明な状況で推移しました。

当社グループが主に事業を展開する国内一般用消費財業界は、店頭での激しい販売競争が続くとともに、原材料価格の上昇による影響もあり、厳しい事業環境にありました。

このような環境の中、当社グループは、新経営ビジョン「Ｖｉｓｉｏｎ（ビジョン）２０２０」に掲げる“くらしとこころの価値創造企業”を目指し、新中期経営計画「Ｖ－１計画（Ｖｉｓｉｏｎ（ビジョン）２０２０　Ｐａｒｔ（パート）－１）」をスタートさせ、４つの戦略テーマ「国内事業の質的成長」、「海外事業の量的成長」、「新しいビジネス価値の開発」、「組織学習能力の向上」に基づく施策を推進しています。

一般用消費財事業では、オーラルケア分野、ファブリックケア分野を中心に付加価値の高い新製品を発売するとともに、積極的なマーケティング投資を行い、主力ブランドの育成に取り組みました。また、定期購入者が順調に増加している機能性食品等（通信販売商品）の事業拡大に努めました。海外事業では、タイ、韓国を中心にオーラルケア、洗濯用洗剤の市場地位向上を目指し、重点ブランドの育成を進めました。

以上の結果、当第１四半期の売上高は、６７５億７千５百万円（前年同期比２．８％増）となりました。

損益は、競争費用の増加等により、３４億２千７百万円の営業損失（前年同期は４億８千７百万円の営業損失）、３２億３百万円の経常損失（同１億８千７百万円の経常損失）となりました。昨年は、東日本大震災の影響で競争費用が減少しましたが、当期は、ブランド育成や新コーポレートメッセージ浸透のための競争費用を増加させたこと等によるものであります。四半期純損益は、２３億２千３百万円の四半期純損失（震災関連損失を計上した前年同期は２７億２千５百万円の四半期純損失）となりました。

【連結業績の概況】　（単位：百万円）

	当第１四半期	売上比	前第１四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	67,575		65,703		1,871	2.8%
営業利益	△3,427	－	△487	－	△2,939	－
経常利益	△3,203	－	△187	－	△3,016	－
四半期純利益	△2,323	－	△2,725	－	402	－

【セグメント別業績】 （単位：百万円）

	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	当第１四半期	前第１四半期	増減額	増減率	当第１四半期	前第１四半期	増減額	増減率
一般用消費財事業	51,482	50,008	1,473	2.9%	△4,169	△1,138	△3,030	―
産業用品事業	11,371	11,194	177	1.6%	△39	222	△262	―
海外事業	14,049	12,900	1,148	8.9%	628	152	476	311.9%
その他	6,333	5,188	1,144	22.1%	195	130	65	50.0%
小計	83,237	79,291	3,945	5.0%	△3,384	△633	△2,751	―
調整額	△15,661	△13,588	△2,073	―	△42	145	△187	―
合計	67,575	65,703	1,871	2.8%	△3,427	△487	△2,939	―

セグメント別の概況は、以下のとおりです。

＜一般用消費財事業＞

当事業は、「オーラルケア分野」、「ビューティケア分野」、「ファブリックケア分野」、「リビングケア分野」、「薬品分野」、「その他の分野」に分かれており、全体の売上高は、前年同期比１４億７千３百万円の増加となりました。セグメント利益は、ブランド育成のための競争費用の増加等により、前年同期比３０億３千万円の減少となりました。

（単位：百万円）

	当第１四半期	売上比	前第１四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	51,482		50,008		1,473	2.9%
セグメント利益	△4,169	―	△1,138	―	△3,030	―

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第１四半期では5,378百万円、前第１四半期では4,707百万円となっております。

［売上高の分野別状況］ （単位：百万円）

	当第１四半期	前第１四半期	増減額	増減率
オーラルケア分野	9,732	9,339	393	4.2%
ビューティケア分野	4,636	4,923	△287	△5.8%
ファブリックケア分野	14,958	15,069	△111	△0.7%
リビングケア分野	4,100	4,457	△357	△8.0%
薬品分野	6,273	6,390	△117	△1.8%
その他の分野	11,782	9,828	1,954	19.9%

（オーラルケア分野）

歯磨は、「デンターシステマ」が好調に推移するとともに、歯のエナメル質の密度を高めて白く輝く強い歯をつくり、ムシ歯を予防する薬用歯磨の新製品「クリニカ エナメルパール」がお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を上回りました。

歯刷子は、改良発売した「クリニカ」が好調に推移するとともに、主力の「デンターシステマ」が堅調に推移し、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

口中剤は、改良発売した「クリニカ」の デンタルリンスが好調に推移しましたが、競争激化の影響を受け、全体の売上は前年同期比微増となりました。

（ビューティケア分野）

ハンドソープは、「キレイキレイ 薬用泡ハンドソープ」が順調に推移し、全体の売上は前年同期を上回りました。

制汗剤は、携帯しやすいプラスチックボトルに改良した「Ｂａｎ（バン） デオドラントロールオン」が好調に推移しましたが、平年に比べ低い気温が続いた影響により主力のパウダースプレーが伸びなやみ、全体の売上は前年同期を下回りました。

（ファブリックケア分野）

洗濯用洗剤は、改良発売した「トップ ＮＡＮＯＸ（ナノックス）」が順調に推移するとともに、天然のエッセンシャルオイル配合で心地よい香りが長続きする新製品「香りつづくトップ plus（プラス）」がお客様のご好評を得ましたが、競争激化の影響を受け、全体の売上は前年同期を下回りました。

柔軟剤は、「香りとデオドラントのソフラン アロマリッチ」が好調に推移するとともに、抗菌力を高めて改良発売した「香りとデオドラントのソフラン」が順調に推移し、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

（リビングケア分野）

台所用洗剤は、「CHARMY（チャーミー） 泡のチカラ」シリーズが伸びなやみ、全体の売上は前年同期を下回りました。

住居用洗剤は、新ロングネックボトルで、高粘度の洗浄液がトイレのふちウラの汚れに密着して洗浄する新製品「トイレのルック」がお客様のご好評を得ましたが、全体の売上は前年同期比横ばいとなりました。

（薬品分野）

解熱鎮痛薬は、頭痛と生理痛の両方に速く効いて胃にやさしい新製品「バファリンルナ ｉ（アイ）」がお客様のご好評を得ましたが、競争激化の影響を受け、全体の売上は前年同期比横ばいとなりました。

栄養ドリンク剤は、「グロンサン」が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

点眼剤は、コンタクトレンズ装用時に感じる目のかゆみや不快感に優れた効果を発揮する新製品「スマイルコンタクト ＡＬ（エーエル）－Ｗ（ダブル）」がお客様のご好評を得ましたが、「スマイル４０ Ｅ Ｘ（イーエックス） クール」が伸びなやみ、全体の売上は前年同期を下回りました。

（その他の分野）

機能性食品等は、主力の「ナイスリムエッセンス ラクトフェリン」が好調に推移し、全体の売上は前年同期比２倍増となりました。

ペット用品は、猫用トイレ「ペットキレイ ニオイをとる砂」が順調に推移し、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

＜産業用品事業＞

当事業では、油脂活性剤、導電性カーボン、業務用洗浄剤等を取り扱っており、全体の売上高は、前年同期比１億７千７百万円の増加となりました。セグメント利益は、原材料価格上昇等の影響により前年同期比２億６千２百万円の減少となりました。

（単位：百万円）

	当第１四半期	売上比	前第１四半期	売上比	増減額	増減率
売　上　高	11,371		11,194		177	1.6%
セグメント利益	△39	―	222	2.0%	△262	―

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第１四半期では4,369百万円、前第１四半期では3,984百万円となっております。

油脂活性剤および導電性カーボンは、需要低迷と競争激化により、全体の売上は前年同期を下回りました。

業務用洗浄剤は、厨房向け消毒用アルコールが好調に推移しましたが、ハンドソープが伸びなやみ、全体の売上は前年同期比微増となりました。

＜海外事業＞

海外は、タイ、韓国、中国等において事業を展開しており、全体の売上高は、前年同期比８．９％の増加（為替変動の影響を除いた実質前年同期比は１２．８％の増加）となりました。セグメント利益は、競争費用の効率化等により、前年同期比３１１．９％の増加となりました。

（単位：百万円）

	当第１四半期	売上比	前第１四半期	売上比	増減額	増減率
売　上　高	14,049		12,900		1,148	8.9%
セグメント利益	628	4.5%	152	1.2%	476	311.9%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第１四半期では677百万円、前第１四半期では683百万円となっております。

（主要国の状況）

タイでは、洗濯用洗剤「パオ」、台所用洗剤「ライポン」が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

韓国では、台所用洗剤「チャムグリーン」、ハンドソープ「キレイキレイ」が好調に推移し、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

中国では、「システマ」歯刷子が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

＜その他＞

（単位：百万円）

	当第１四半期	売上比	前第１四半期	売上比	増減額	増減率
売　上　高	6,333		5,188		1,144	22.1%
セグメント利益	195	3.1%	130	2.5%	65	50.0%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第１四半期では5,236百万円、前第１四半期では4,213百万円となっております。

その他では、建設請負事業が好調に推移し、全体の売上高は６３億３千３百万円（前年同期比２２．１％増）、セグメント利益は１億９千５百万円（前年同期比５０．０％増）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当四半期における資産、負債および純資産の状況

（連結財政状態）

	当第１四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末	増減
総資産（百万円）	244,188	249,272	△5,084
純資産（百万円）	105,423	105,252	170
自己資本比率※1（%）	41.6	40.9	0.7

※1： 自己資本比率は、（純資産－新株予約権－少数株主持分）／総資産で計算しています。

総資産は、有価証券、受取手形及び売掛金の減少等により、前連結会計年度末と比較して５０億８千４百万円減少し、２,４４１億８千８百万円となりました。純資産は、１億７千万円増加し、１,０５４億２千３百万円となり、自己資本比率は４１．６％となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成 24 年２月 10 日に公表いたしました第２四半期累計期間および通期の連結業績予想については変更しておりません。

わが国経済は、復興需要による景気の持ち直しが見込まれる一方、原油価格の高止まりや厳しい雇用情勢、電力供給にかかる企業活動への影響など先行き不透明な状況が続くものと想定されます。

当社グループが主に事業を展開する国内一般用消費財業界では、店頭での競争激化や原材料価格の上昇など厳しい状況が続くものと予想されます。

このような環境のもと、当社グループは「Ｖ－１計画」の戦略を着実に実行し、国内外における重点ブランドの育成、トータルコストダウンへの継続的な取り組みにより、収益性の向上と事業基盤の強化を目指してまいります。

（当期業績予想値算出の前提条件）

主要な為替レートは、７８円／米ドル、２．５円／バーツとしています。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（１株当たり当期純利益に関する会計基準の適用）

当第１四半期連結会計期間より潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、「１株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第２号　平成 22 年６月 30 日）及び「１株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第４号　平成 22 年６月 30 日）を適用しております。

なお、前第１四半期連結累計期間及び当第１四半期連結累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、１株当たり四半期純損失を計上しているため開示しておりません。

（有価証券の減損処理に基づく評価損の戻入れ処理の変更）

四半期連結会計期間末に計上した有価証券の減損処理に基づく評価損の戻し入れについては、従来、四半期切放し法を採用しておりましたが、当第１四半期連結会計期間より四半期洗替え法に変更しております。この変更は、昨今の経済環境の著しい悪化に起因する期中での短期的株価変動による影響を排除し、連結会計年度末における財政状態及び経営成績をより適切に表示するためのものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及処理は行っておりません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年12月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成24年３月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,478	26,084
受取手形及び売掛金	55,193	43,535
有価証券	10,439	5,003
商品及び製品	20,277	25,343
仕掛品	2,776	3,562
原材料及び貯蔵品	7,198	7,595
その他	5,913	8,712
貸倒引当金	△53	△50
流動資産合計	127,224	119,786
固定資産		
有形固定資産	58,503	59,083
無形固定資産		
商標権	18,968	18,087
その他	2,521	2,430
無形固定資産合計	21,489	20,518
投資その他の資産		
投資有価証券	22,386	25,902
その他	19,708	18,935
貸倒引当金	△39	△39
投資その他の資産合計	42,055	44,799
固定資産合計	122,048	124,401
資産合計	249,272	244,188
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	42,078	41,675
短期借入金	5,140	5,319
1年内返済予定の長期借入金	2,416	2,416
未払金及び未払費用	37,885	34,556
未払法人税等	1,349	878
賞与引当金	2,091	1,586
返品調整引当金	569	566
販売促進引当金	450	394
役員賞与引当金	147	55
その他	2,474	3,149
流動負債合計	94,603	90,598
固定負債		
長期借入金	25,087	23,908
退職給付引当金	19,153	19,060
役員退職慰労引当金	267	288
資産除去債務	323	324
その他	4,584	4,585
固定負債合計	49,417	48,166
負債合計	144,020	138,765

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第１四半期連結会計期間 (平成24年３月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,433	34,433
資本剰余金	31,499	31,499
利益剰余金	56,755	52,816
自己株式	△16,653	△16,641
株主資本合計	106,035	102,108
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△351	2,180
繰延ヘッジ損益	△6	31
為替換算調整勘定	△3,628	△2,635
その他の包括利益累計額合計	△3,986	△423
新株予約権	180	183
少数株主持分	3,023	3,554
純資産合計	105,252	105,423
負債純資産合計	249,272	244,188

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成23年１月１日 至 平成23年３月31日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成24年１月１日 至 平成24年３月31日）
売上高	65,703	67,575
売上原価	28,397	30,194
売上総利益	37,305	37,380
販売費及び一般管理費	37,793	40,808
営業損失（△）	△487	△3,427
営業外収益		
受取利息	22	36
受取配当金	4	4
持分法による投資利益	320	197
受取ロイヤリティー	53	45
為替差益	30	50
その他	100	87
営業外収益合計	532	423
営業外費用		
支払利息	219	178
その他	11	20
営業外費用合計	231	199
経常損失（△）	△187	△3,203
特別利益		
貸倒引当金戻入額	17	－
特別利益合計	17	－
特別損失		
減損損失	－	70
固定資産処分損	12	17
災害による損失	3,395	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	190	－
その他	372	－
特別損失合計	3,970	88
税金等調整前四半期純損失（△）	△4,139	△3,291
法人税、住民税及び事業税	427	514
法人税等調整額	△2,007	△1,704
法人税等合計	△1,580	△1,189
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△2,559	△2,102
少数株主利益	166	220
四半期純損失（△）	△2,725	△2,323

四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成23年１月１日 至 平成23年３月31日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成24年１月１日 至 平成24年３月31日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△2,559	△2,102
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△772	2,580
繰延ヘッジ損益	32	37
為替換算調整勘定	316	1,079
持分法適用会社に対する持分相当額	92	174
その他の包括利益合計	△331	3,872
四半期包括利益	△2,890	1,770
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,136	1,239
少数株主に係る四半期包括利益	245	531

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）セグメント情報等

【セグメント情報】

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自　平成 23 年１月１日　至　平成 23 年３月 31 日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
	一般用消費財事業	産業用品事業	海外事業				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	45,301	7,210	12,217	974	65,703	―	65,703
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高(注)1	4,707	3,984	683	4,213	13,588	△13,588	―
計	50,008	11,194	12,900	5,188	79,291	△13,588	65,703
セグメント利益又は損失(△)	△1,138	222	152	130	△633	145	△487

（注）1 報告セグメント内の内部取引を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失（△）の調整額 145 百万円は、内部取引消去額等であります。

3 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自　平成 24 年１月１日　至　平成 24 年３月 31 日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
	一般用消費財事業	産業用品事業	海外事業				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	46,104	7,002	13,371	1,096	67,575	―	67,575
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高(注)1	5,378	4,369	677	5,236	15,661	△15,661	―
計	51,482	11,371	14,049	6,333	83,237	△15,661	67,575
セグメント利益又は損失(△)	△4,169	△39	628	195	△3,384	△42	△3,427

（注）1 報告セグメント内の内部取引を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失（△）の調整額△42 百万円は、内部取引消去額等であります。

3 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（６）追加情報

当第１四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第 24 号　平成 21 年 12 月 4 日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第 24 号　平成 21 年 12 月 4 日）を適用しております。